

協議会組織による地域営農の確立 ～想いをひとつに、挑戦！踏み出そう 新たな一歩を！～



今金町金原・鈴金地区(30戸)

檜山農業改良普及センター檜山北部支所

課題設定の背景

【地域の概要】

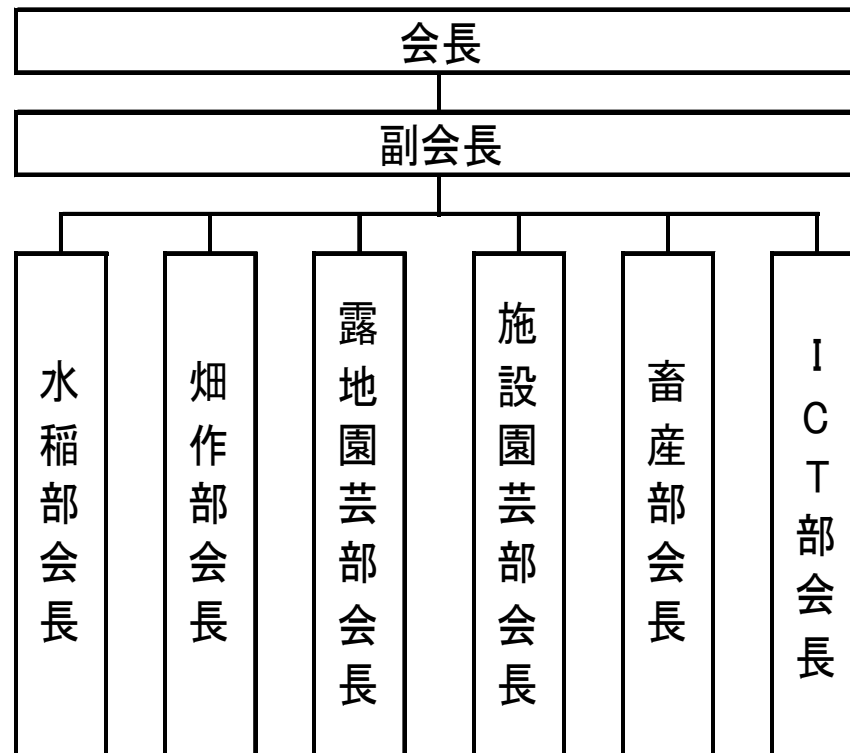
経営面積(作付) 644.4ha、平均経営面積21.5ha
水稲288.4ha、大豆82.0ha、ばれいしょ41.4ha、小麦46.5ha、
てんさい7.4ha、そば14.2ha 小豆13.2ha、露地野菜27.2ha、
施設野菜2.5ha、飼料作物121.6ha、乳牛65頭、肉用牛227頭

【地域の現状】

- ・ 高齢化(65才以上43%)は進んでいるが、50歳以下の就農者(13名)と比較的若い世代が多い地域。
- ・ 10年以内の離農希望者(9戸:30%)がおり、労働力不足や後継者不足への対応が急務。
- ・ 水稲作付面積が45%、水稲専業農家が15%と水稲中心であり、作付面積確保のため省力化技術の導入が望まれている。
- ・ 輪作体系の確立、畑作・園芸作物の栽培改善が必要。

地域協議会とは？

- ・ 地域の課題や将来像などを地域の人達と話し合う場
- ・ 地域住民の自主的な活動運営などにより、課題解決を図るための組織
- ・ 地域農業の活性化を目指す方向性を提言できる組織



HS (ヒア・サステナブル) : 「ここで、持続的に」の略

金原・鈴金HS農業農業推進協議会組織体制

具体的推進事項 地域協議会組織による地域営農維持

目標事項：若手農業者による地域課題解決への方向性協議

活動の経過

地域営農維持に向けた意向調査を実施し、将来の経営規模、共同作業の必要性などの意向を確認



重点地区および隣接する豊田地区の5年、10年、15年後の農地と農家戸数の推移予測のシミュレーションを実施



意向調査の結果は、地域協議会の役員会および現地研修会で報告・共有したシミュレーション結果に基づく今後の農地維持や労働力確保などについて、若手経営主と関係機関を交えて協議を行った



具体的推進事項
成果の具体的内容

地域協議会組織による地域営農維持

【目標事項】

若手農業者による地域課題解決への方向性協議

地域課題解決手段の提案

開始→目標→実績（到達度）

0 → 1 → 1（100%）

意向調査では、経営規模拡大・縮小希望は現状維持と10年後の状況は未定が大半維持・縮小の理由は労働力不足で、労働力確保が地域営農維持の課題

農地・農家戸数のシミュレーションでは、15年後には農家戸数が約半数、256haの農地が放出される

農地維持、労働力不足対応に今後必要とされる取り組みについて役員会で意見交換を実施。地域課題解決に求められる具体的な取り組みへの意識が高まった

令和6年1月1日 農家39戸（内：豊田10戸）
40代以下16戸（内：豊田3戸）



（役員会で協議された取り組み案）
現行の生産体制を維持

令和11年（5年後）
⇒ 40代以下 1戸あたり 14ha増加



（役員会で協議された取り組み案）
省力作物など作付け品目の見直し

令和16年（10年後）
⇒ 40代以下 1戸あたり 25ha増加



（役員会で協議された取り組み案）
法人化、共同作業、コントラ

令和21年（15年後）
⇒ 40代以下 1戸あたり 51ha増加

図 重点および豊田地区の農地と農家戸数推移予測
（放出地：75歳で離農（後継者なし）農業者の農地）

具体的推進事項

地域協議会組織による地域営農維持

目標事項：若手農業者による地域課題解決への方向性協議

結果の考察

地域営農維持に向けた意向調査、今後の農地と農家戸数の推移予測のシミュレーション結果から、地域の現状と将来予測の具体的な数値による問題提起を行ったことが、地域課題解決に求められる具体的な取り組みに向けた意識向上につながったと思われる。

協議には、毎回、町・JA担当者の参加があり、地域の現状や農業者の意向・問題意識などを共有することができたと思われる。

今後の対応

「金原・鈴金HS農業推進協議会」の運営支援に取り組み、法人化・作業受委託・コントラ・機械の共同利用など若手経営主による地域営農維持に向けた具体的な取り組みへの検討を支援する。

具体的推進事項 成果の具体的内容

所得確保に向けた生産性向上

【目標事項】

水稲直播栽培の安定生産 品種検討・除草体系改善戸数

開始→目標→実績（到達度）

0戸→2戸→2戸（100%）

1戸で水稲乾田直播栽培の品種比較試験を実施（2年目）

品種	は種量 (kg/10a)	苗立本数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	収量 (kg/10a)	整粒歩合 (%)	成熟期
えみまる	12.8	338	690	557	77.4	9/4
大地の星	11.8	188	654	520	69.7	9/6
参考値 (えみまる倒伏箇所) ※8/18に倒伏を確認	—	—	969	381	63.2	—

収量・品質が安定する「えみまる」を提案

現行の品種「大地の星」と比べ、「えみまる」は成熟期が2日早く、収量・整粒歩合が優ることを確認できた。

「えみまる」ほ場一部で倒伏が生じ、倒伏させない栽培管理について意識が高まった。



「えみまる」倒伏の様子

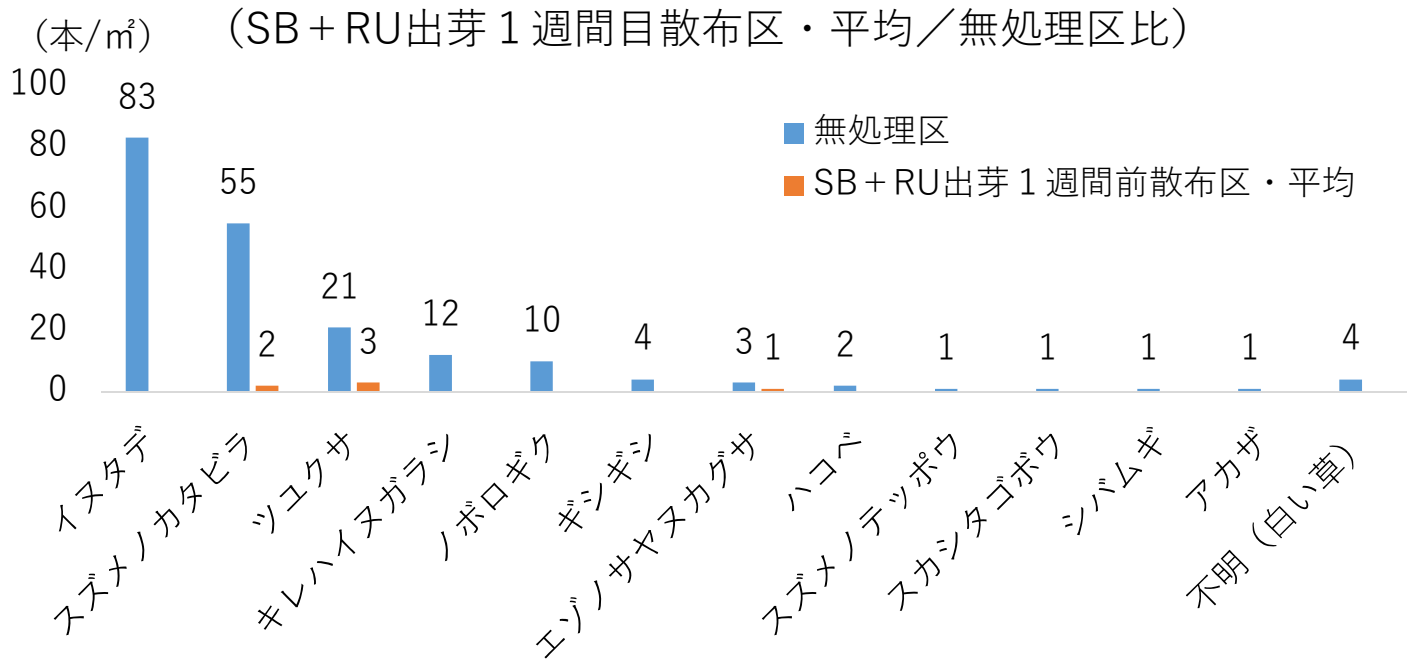
具体的推進事項 所得確保に向けた生産性向上

目標事項：水稲直播栽培の安定生産

成果の具体的内容

1戸で水稲乾田直播栽培の除草剤試験を実施（1年目）

主な雑草の種類と発生量



土壌処理剤試験ほ

土壌処理剤を
導入して
良かった!



当地域で使用事例が無かった、土壌処理剤の導入を提案。

スズメノカタビラ対策に加え、後発雑草の抑制と防除適期が広がることわかった。

具体的推進事項

所得確保に向けた生産性向上

目標事項：水稲直播栽培の安定生産

結果の考察

「えみまる」ほ場で一部倒伏したのは、①苗立数過剰による茎数過多、②流し込み追肥による施肥ムラ、③流し込み追肥のタイミングが幼穂形成期と遅かったこと、④倒伏軽減剤の使用時期の遅れが原因と考えられる。

今後の対応

水稲直播栽培の品種検討は、「えみまる」の優位性が確認出来たため、次年度から「えみまる」の安定栽培に向けた支援を行う。

土壌処理剤を活用した除草体系改善は、技術定着と普及を目指す。

具体的推進事項
成果の具体的内容

所得確保に向けた生産性向上

【目標事項】 大豆の高位安定技術確立 大豆早期は種導入戸数	開始→目標→実績（到達度） 0戸→3戸→3戸（100%）
----------------------------------	---------------------------------

水稲移植前の早期は種に3戸が取り組んだ。（3年目）

農家名	区分	製品収量 (kg/10a)	慣行は種比較
M氏	早期は種（5/16）	432	140%
	慣行は種（5/30）	309	
U氏	早期は種（5/16）	385	114%
	慣行は種（5/30）	338	
N氏	早期は種（5/17）	502	108%
	慣行は種（5/30）	465	



両区とも出芽は良好

早期は種を行うことにより全ほ場にて収量が向上した。



具体的推進事項

所得確保に向けた生産性向上

目標事項：大豆の高位安定技術確立

結果の考察

早期は種により初期生育が向上し、葉数が確保できたことから収量が向上したと考えられる。

大豆の早期は種による低収回避の現地実証に継続的に取り組み、増収効果を提示したことで、安定栽培に向けた早期は種への関心が高まったと思われる。地域内で新たに取り組む農業者も見られている。

今後の対応

大豆の早期は種栽培は、地区への技術普及定着が見込まれるため、一般活動として対応する。

次年度以降は、秋まき小麦の生育に対する適正な肥培管理技術導入を検討する。

具体的推進事項

所得確保に向けた生産性向上

【目標事項】

肉牛の素牛飼養管理改善 飼料給与技術改善戸数

開始→目標→実績（到達度）

0戸→3戸→3戸（100%）

活動の経過

①市場前巡回指導

栄養状態・粗飼料品質・給与技術
市場前の素牛を見て総合判断

④残る問題の検証

技術力による労働生産性向上
更なる改善の必要性を検証

飼料給与技術改善

②改善に向けた指導

季節別・農場別の特徴を踏まえ
課題を設定し解決策を提案

③変化の評価

素牛の栄養改善状況
粗飼料品質改善状況

具体的推進事項

所得確保に向けた生産性向上

目標事項：肉牛の素牛飼養管理改善

成果の具体的内容

【A農場】 移植水稻を中心とした肉牛経営

哺乳期の牛への飼料給与技術が向上し、腹胸比が改善した。

A農場 腹胸比の改善

項目	腹胸比		市場平均 価格差(※)
	4ヶ月齢	6ヶ月齢	
改善前	1.15	1.13	+18,862
一部改善後	1.13	1.19	+91,041

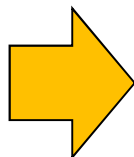
(※)市場平均価格と個体販売価格の差額

A農場 去勢牛 年間市場販売成績

年	販売頭数 (頭)	出荷日齢 (日)	出荷体重 (kg)	DG	市場平均との差 (円)
R 3	10	263	353	1.4	+103,597
R 4	9	271	354	1.3	+61,723
R 5	5	273	350	1.3	+132,928

※DGは日増体量 (出荷体重/出荷日齢)

良質牧草の生産に向け、強害雑草対策を取り入れた草地更新が実施された。



草地更新前にハルガヤを駆除
種子が発芽能力を持つ前に実
施 (5月中)

更新後2年でハルガヤが占有したため、適正な方法で再度更新

具体的推進事項

所得確保に向けた生産性向上

目標事項：肉牛の素牛飼養管理改善

【B農場】 肉牛を中心として水稻生産

素牛専用草地の造成と良質粗飼料の給与により、素牛の発育が向上した。

B農場 去勢牛 年間市場販売成績

年	販売頭数 (頭)	出荷日齢 (日)	出荷体重 (kg)	DG	市場平均との差 (円)
R 3	18	280	332	1.2	+19,215
R 4	20	287	347	1.2	+58,394
R 5	15	278	336	1.2	+65,186

※DGは日増体量（出荷体重／出荷日齢）

【C農場】 酪農を基盤として肉牛を増頭

急激な増頭に対し、簡易施設を設置した。
過剰投資を防ぎ経営体力を温存する。



C農場 ハウス牛舎建設中



C農場 植生の悪い草地から順次更新

B農場 色分けして良質牧草を管理



B農場 素牛専用草地の乾燥牧草

共通の課題は粗飼料



【1頭1反運動】
推進中

具体的推進事項

所得確保に向けた生産性向上

目標事項：肉牛の素牛飼養管理改善

結果の考察

市場前の巡回により、農家とともに牛を見ながら課題の設定を行ったことが、改善への合意につながったと考えられる。

改善の結果により、市場価格の向上に直結したことが、継続的な改善への取り組みにつながったと考えられる。

粗飼料という共通課題を設定し、重点的に管理する草地面積を1頭あたり1反という小面積に絞り、管理のハードルを下げたことが、草地更新による優良粗飼料生産の取り組みにつながったと考えられる。

今後の対応

草種に応じた難防除雑草対策を取り入れた草地更新を推進し、良質粗飼料の安定生産を推進する。

優良粗飼料生産による素牛生産技術及び所得向上のモデル事例とし、地域への技術普及に活用する。